

令和元年 7月の園だより



【人と出会い、ふれあう中で】

5月と6月には、家庭科の授業で県立工業高校の生徒さんが実習に來たり、段原中学校と翠町中学校の生徒さんが職場体験にやってきました。子どもたちは、ご飯を食べさせてもらったり、着替えを手伝ってもらったり、たくさんお世話をしてもらったり、園庭やお部屋でいっぱい遊んでもらいました。0, 1歳児さんは、人見知りをしたり、最初はなかなか近づけない子どももいましたが、しばらくすると、「どうぞ」とおもちゃを渡したり、抱っこをしてもらったりして、少しずつうちとけていく様子が見られました。2歳児さんになると、お兄さんお姉さんを独占して遊びたくて引っ張りだこになってしまう場面もあったようです。みんなお兄ちゃんお姉ちゃんが大好きで、帰る時には、涙がでてしまう子どもがいたくらいです。

後日送られてきた生徒さんのレポートには、「職場体験を通してより保育士になりたい気持ちが強くなりました」とか、「男だけど母性本能をくすぐられ、かわかった」「自分に子どもができたらたくさん可愛がってあげたい」「相手の目線に立って考えること、自分のためではなく、誰かのために行動することが一番大切だと分かった」など、率直な感想が書かれていました。生徒さんにとっては、実際に子どもとふれあい、ぬくもりを感じる中で、将来について考えるきっかけになったり、小さな子どもたちを心からかわいと感じ、自分も小さい時に多くの人にお世話をしてもらい、可愛がられて育ったことを振り返る機会にもなったのではないかと思います。

また、「青年期に小さい子と接した経験がある子は、自分が親になった時、子育てで不安を感じない。」という報告もあります。限られた短い時間でしたが、体験を通してきっと、将来に役立つ多くの学びになったことと思います。そして、子どもたちにとっても、大人より年齢が近いお兄さんお姉さんとふれあい、楽しく貴重な時間になりました。これからも多くの人と出会い、ふれあう中で、人と関わることが大好きな子に育ってほしいと願っています。

児童精神科医だった佐々木正美氏が「人間が、健康に幸福に生きていくために、心の基盤なるものは、人を信じるかどうかということだ」と言われていました。人を信じるようになるには、乳幼児期に信じることができる人に、ひとりでも多く出会うことが大切だそうです。核家族化がすすみ、異世代間交流が希薄になっている今、今回のような実習や体験の意味をしっかりと考えるとともに、日頃から地域の皆さんに見守られていることに感謝しながら、様々な人との出会いを大切にしていきたいと思います。

今年は、例年より遅い梅雨入りとなりましたが、今年よりプールあそびや泥んこあそびが始まります。天候や気温、お子さんの体調をみながらすすめてまいります。調子が悪いときは必ずお知らせください。また、水あそびが始まると、疲れやすくなりますので、ご家庭では「早寝、早起き、朝ご飯」を心がけ、生活リズムを整えて、元気に夏を過ごせるようにしていただければと思います。

園長

